

線山雄大 ピンク色 春めき電車 100周年塗装 第4弾

伊豆箱根鉄道（伍堂文庫社長、本社静岡県三島市）は4日から、小田原―大雄山間を走る大雄山線で、「春めき電車」の運行を開始した。早咲き桜「春めき」をイメージした車体色。

5506編成の前面と側面帯をピンク色に塗り替え、1日12〜15往復で運行。ピンクの色合いはそこまで強くなく、品のある印象が

伝わってくる。

春めきは25年前の2000年に、南足柄市塚原在住の古屋富雄さん（元同市職員、春めき財団理事長）が品種登録した。河津桜より遅く、ソメイヨシノよりも早い時季に咲く

桜。いまでは同市の重要な観光資源に成長し、県内外から行楽客がやってくる。

伊豆箱根鉄道は1925年10月に開業し、今年で100周年の大きな節目。曹洞宗の古刹、大雄山最乗寺（南足柄市大雄町）を詣でる人たちのため、参詣鉄道として運行が開始



新しく運行が始まった「春めき電車」（大雄山線和田河原駅で4日撮影）

春めき電車は100周年に向けた事業の第4弾。今回の塗装を経て、大雄山線7編成の列車の車体がすべて、異なる色に変わった。これまでの第1弾は、最乗寺にちなんだ「天狗電車」、第2弾は南足柄市の花からヒントを得た「リンドウ電車」。さらに第3弾は、小田原市の代表的な柑橘類をイメージした「オレンジトレイ」。

南足柄市立向田小学校に通う男子児童は3月下旬、営業運転開始前の春めき電車を大雄山駅の車両基地で目にした。その前には、伊豆箱根鉄道とJR貨物の貨物列車によって、輸送される場面が目撃されていた。

運行に関する問い合わせは、伊豆箱根鉄道鉄道部運輸課（☎0551-977-1120）へ。平日のみ対応。